

山行番 NO. 1657
日時 2015.09.27(日)曇り・霧
山域 安倍奥・山伏(やんぶし・2014m)
コース・ 下土狩5:00-第二東名-新田-西日影沢駐車場-大谷崩駐車場発7:30-登山口7:40
タイム 新窪乗越(しんくぼのっこし)9:04-山伏10:44~11:37-蓬峠(よもぎとうげ)
12:51-大岩・ワサビ小屋13:32-林道14:08-西日影沢駐車場14:16-黄金
の湯15:00~16:00-下土狩18:00
標高差 上り=大谷崩駐車場約1280m~山伏2014m=約734m(縦走あり)
下り=山伏2014m~西日影沢駐車場約930m=約1084m
参加者 後藤、勝又陽、勝又薫、峰田、浜道、秋山、室伏、今西、沖、水落=10名

天気予報は、曇りのち晴れだったが、曇天。高速道路から山のほうを見ると、霧に包まれている。どんな山行になるのだろうか。

予定通り、西日影沢駐車場に車を一台置き、もう一台に全員乗り込み、大谷崩駐車場へ。途中、熊すずを鳴らしながら散歩する男性とすれ違い、鹿にも遭遇。あわてて逃げる様子もなく、鹿が多くなり、人間を恐れなくなっているのを感じる。

大谷崩駐車場に到着。大谷崩れとは、1707年の大地震で大崩壊しトラック20,000,000台分もの土砂が崩れ、大きな災害をもたらしたそうです。このあたりの山の様子を見ると、ところどころ崩れているところがあり、この辺りの地質が崩れやすいのかと思われる。

登山口から新窪乗越へ出発。大谷崩れの砂利道、ガレ場をひたすら登る。ひたすら登る。ひたすら登る。傾斜も急な個所もあり。ジグザグと登るところもあり。みんな黙々と汗をかきながら、各々水分補給をしながら、途中霧に包まれ、上を見ても頂上が見えず、ひたすら登り、ようやく新窪乗越に到着。

一息ついて、山伏に向けて出発。ここからようやく山に来た感じがする。まだ木々は緑色だが、紅葉している木もあり、落ち葉もたくさん。なんどか上り下りし、山伏に到着。

頂上はひらけていて、ほかの人たちもいなく、貸し切り状態でお昼ごはんとなる。ごはんを食べていると、西日影沢から地下足袋の男性が登ってきた。西日影沢に車を置いているのでピストンらしい。

下山口を間違えないように下山ルートを確認しながら下山開始。途中8人のグループが登っていてすれ違う。霧も出ているので、落ち葉も石も濡れていて滑りやすい。足元を注意しながら下る。まわりの石、岩は苔むして綺麗。あちこちにキノコが生えていて、キノコを見るたびにこれは食べられるだろうか、おいしそうだ、これはきっと毒があるだろうと話しながら歩く。昔の人は食べられるキノコと毒キノコをどうやって調べたのだろうか？

ロープで下るところが何か所もあり、山肌にロープが掛けてありロープを持ちながら山肌を渡る個所あり、ジグザグと下りる個所あり、橋を渡ったり、川を石の上を渡ったり、変化に富んでアスレチックのようだった。

大岩は、写真に納まらないほど、大きな岩だった。しばらく歩くと、昔のワサビ棚のあとがあった。ここまでくると駐車場がもう近い。無事下山。

待ちに待った、温泉。温泉はぬるぬるしていて、肌がすべすべになりそう。美人の肌になる温泉らしい。美人の肌って???汗を流し帰路へ。



上る上る上る



富士薊



新窪乗越



ナズのキノコ??





山名は、「山伏」です
「帽子」で「防止」

美味しい
昼食



ヤナギランを
保護しています
(シカの食害)

ヤナギラン保護柵



蓬峠

ワサビ小屋と
大岩





山伏頂上

その他の記述（L 後藤）

1. 新東名から、安倍奥は、とても連絡がイイね。
2. トイレは、新田下に立派なモノがある。（こんな山で、ウオッシュレットでした。感動！！）
3. 1707年10月、宝永地震があって、ここの大崩壊が始まった。そして11月、富士山宝永山が大噴火。昔から、地震と噴火は連携している。
4. 大谷崩れは、昔に比べると随分、樹木が増えた。
5. 大谷崩れの、富士薊が綺麗だった。
6. 好天なら、大谷崩れの大景観が見られたが、ちょっと残念だった。
7. 山伏の頂上標柱は、山伏岳だった。「岳」は、マズいので、「帽子」で「防止」した。（笑い）なお、この標柱は、参加者のMさんの友人で、当地に住む方の製作とか・・・??！！
8. 山伏は、2000m以上の山だが、日曜日にもかかわらず、登山者は、数える程しかいない。渋好みの山です。夏は、「ヤナギラン」が見られる。
9. 西日影沢ルートは、「キケンなコース」と表示があったが、確かに、荒れていた。
10. 市営「黄金の湯」は、超アルカリでヌルヌルヌル。しかも、施設が立派。これで700-は安い。箱モノを乱造した時代の遺産（負の）です。
11. 帰路、「黄金の湯」から、下土狩まで、2H掛からなかった。道路連絡（アクセス）は、サイコーです。

参加者の一言

勝又陽 「下りが思った以上に応えました。下腿三頭筋（ふくらはぎ）が痛い！」

浜道 「修験の山と聞いて、どれだけ厳しい山なのかと思って上りました。確かに上り下りとも急な山道でしたが頂上はそのような面影は全くなく穏やかな笹の多い平坦地でした。

日が差し込まない登山道には、苔が多く見られました。こういう道は滑りやすく嫌ですね。ハナイグチにはお目に掛かれませんでした」

後藤 「久しぶりの山伏でした。2000mありますが、渋い山ですね～！！」

秋山 「『登りは体力、下りは技術』と言いますが、それを痛感した山行でした」

- 沖 「登りもきつかったけど、下りは道もキケンでくたびれました。久素振りに腿がパンパンで山に行った気分です」
- 今西 「静岡市の奥は、こんなに奥深いんだと思いました」
- 室伏 「新窪乗越までの1時間30分、きつかったです」
- 勝又薫 「上りは少しきつかったけど足つりもなく無事登れたので良かったです」

おわり